

## 2022年度 加賀看護学校 学校評価結果

学校評価は、学内評価委員および学校関係者評価委員による「学校評価」と学生による「授業評価」を実施しています。

### 1. 学校評価

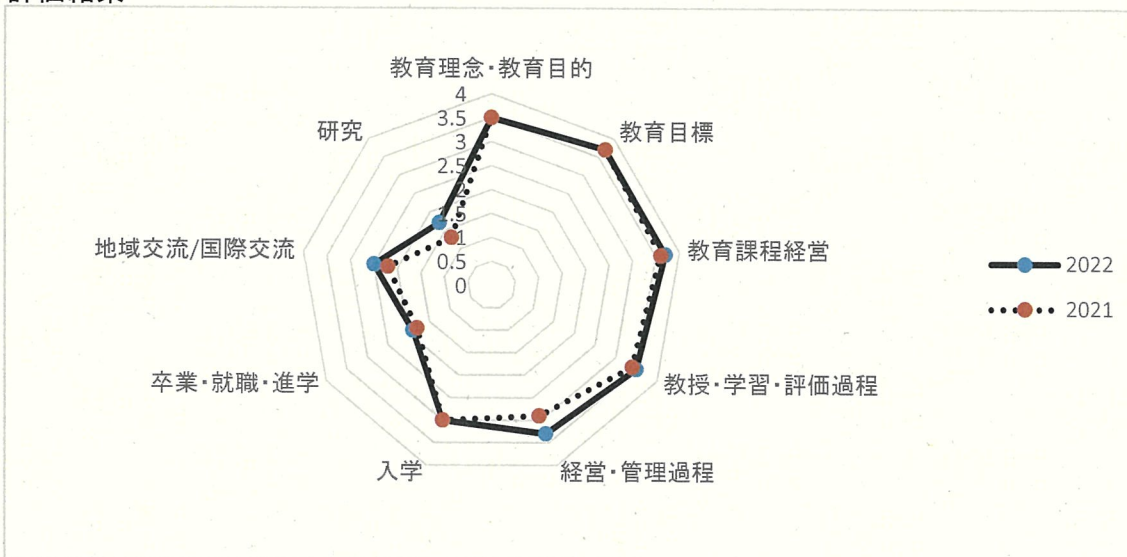
#### 1) 評価内容

I 教育理念・教育目的	5項目
II 教育目標	5項目
III 教育課程経営	15項目
IV 教授・学習・評価過程	12項目
V 経営・管理過程	14項目
VI 入学	2項目
VII 卒業・就職・進学	4項目
VIII 地域交流/国際交流	7項目
IX 研究	3項目
計	67項目

#### 2) 評価の基準

4 当てはまる 3 やや当てはまる 2 やや当てはまらない 1 当てはまらない

#### 3) 評価結果



#### 4) カテゴリーごとの評価の概要

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
I 教育理念・教育目的	3.5	❖学校の教育理念・目的・目標は、地域社会に貢献できる質の高い看護師養成を保障するものであり、学生便覧、シラバス、実習要項、学校案内に記載している。その内容は学生の学習の指針として、また教職員の教育の指針として明示されている。看護学教育や学生観、アドミッションポリシーを明文化したものがないため検討する必要がある。	❖シラバスに科目毎の到達度の明記があるとよい。 ❖アドミッションポリシーは、入学後の方向性をイメージできるため明記されるとよい。
II 教育目標	3.7	❖教育目標は、教育理念・目的と一貫性があり、教育内容を網羅したものとなっている。ディプロマポリシーとして継続教育の考え方を示しているが、卒業後の継続教育について明確に提示したものはないため、見直しを行う。	❖継続教育の一方法として卒業生が技術不足などを補うために学校を利用できる体制が整うとよい。 ❖キャリアアップしている卒業生と在校生との懇談会は継続教育の意識づけとなっているのではないかと。 ❖卒業生が色々な資格を取り活躍している状況を同窓会として情報発信し、学生が継続教育を考える一助となるとよい。

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
III 教育課程 経営	3.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育課程は教育理念・目的・目標から考えられており、学科進 度・科目・単元の考え方もシラバスに明文化されている。</li> <li>◆令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症に伴う出席停 止や臨地実習受け入れ中止があったが、講義においても臨地実 習においても、遠隔授業や学内実習を取り入れながら計画通りに カリキュラムを遂行することができた。</li> <li>◆教育課程評価の体系においては、学生による授業評価が定着 してきており、その結果を還元し効果的な教授方略を検討するよ う各講師に依頼している。評価結果は厳封手渡しとし結果の公表 も個人が特定できないようにしているが、具体的な倫理規定がな いため今後検討する必要がある。</li> <li>◆教員の科目分担は偏りなく配分されているが、近年は個別の学 生対応が求められることが多く授業準備に十分な時間がとれてい ないため、業務の見直しが求められる。</li> <li>◆臨地実習については、定期的の実習指導者会議を開催し実習 指導体制、学生の安全教育・安全確保について十分に話し合い ながら学生指導にあたっている。しかし令和4年度は全実習施設 を対象とした合同実習指導者会議が実施できなかったため、全体 での共通理解を図ることができなかった。</li> <li>◆ケアの対象者の権利の尊重について明文化されたものがない ため、今後整備していく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教員の負担が大きく、授業準 備や自己研鑽できないのでは ないか。教員にもケアが必要 ではないか。教員に余裕がない と教育の質の低下を招くリス クがある。</li> <li>◆教員一人当たりの学生数と 教科の持ち時間を数値化し他 学校と比較することで、教員 の負担度が明確になる。</li> <li>◆カウンセラーの採用が困難 であれば、教員のOBを採用し 、学生と教員の間にあって学 生の話を聞いてもらう形もあ る。</li> <li>◆同一実習を複数の施設で 行う場合、担当する施設間の 指導者でディスカッションす る機会を設けてもらいたい。</li> </ul>
IV 教授・学 習・評価 過程	3.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆教育内容は、教育理念・目的・目標と一貫性をもち、科目目標・ 単元目標、科目間の関連性、評価方法はシラバスに明示してい る。シラバスは、学生の学習への動機づけとなっている。</li> <li>◆授業の展開では、シラバスに沿い学生の学習が進化するよう 授業方法を選択している。また科目の到達度としてルーブリック評 価を取り入れている科目も増えており、より学生にとってわかりや すいものとなっている。しかし、具体的な授業方略や評価計画は 担当講師に一任しているため、全ての講師が行っているとは言 えない。今後より浸透していくよう働きかけていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆講義科目は、講義の進行等 の確認・調整をするために中 間評価を取り入れる。また、 最終評価時にリフレクション を取り入れるとよい。学生が 自分の到達と講師の評価との 差異に気づき、現科目だけ でなく次に学ぶ科目への取 り組み姿勢につながる効果 がある。</li> </ul>
V 経営・管 理過程	3.3	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校長及び事務局長が病院との兼務であるが、職員会議等で 管理者の考えを確認しながら、連携して学校運営にあたってい る。組織体制は学則等に明示されており、職務分掌に沿って各々 の役割を果たしている。今年度は教務事務の配置や学籍管理シ ステム導入により、成績や出欠状況、講師対応など一元管理され 業務効率化につながった。</li> <li>◆財政基盤は大部分が市の一般財源となっている。必要な教材 は計画どおりに整備し適正な予算執行ができています。コロナ禍 の中、全学年が同時に遠隔授業を行える器材を揃えた。新カリキ ュラムに向け必要なICT教材も整備し授業に活用予定である。一 方で限られた校舎内で福利厚生設備は十分ではなく学生に不便 をかけている。</li> <li>◆広報活動として、地方紙を通じた学校の話発信に取り組み掲 載回数は増えたが、ホームページの活用・改善は課題となってい る。</li> <li>◆自己点検・自己評価は規定に基づき実施できている。課題の改 善に取り組んでいるが十分でない点もあり課題となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学校PRとして若い人たちが 関心を示す方法を検討しては どうか。若い人は新聞やホー ムページは見ない。情報ツール はSNSを利用し、Instagram やTwitterが主流である。学 生に日常を眩かせるとよい。い いね！がついたりアクセス数 が増えるようである。</li> </ul>
VI 入学	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆コロナ感染状況に応じてオンラインまたは対面でのオープンス クールを開催し、業者による高校内進路相談にも積極的に参加し たが、受験者数が減少している。入学選抜方法を検討し改革に取 り組んだ。ホームページやパンフレットを改善し、学校の魅力発信 に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆入学選抜方法は妥当であ る。</li> </ul>
VII 卒業・就 職・進学	1.9	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆卒業時の到達度は、看護技術経験状況と看護の統合と実践IV におけるOSCEで把握している。</li> <li>◆国家試験合格率は90%で全国平均を下回り、進学希望1名の 進学が決まらず、大きな課題となった。国家試験合格者のうち 54%が加賀市内に、77%が県内に就職している。</li> <li>◆卒後1年目の退職者の報告もあり、卒業生の活動状況の把握 及び分析が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆卒業生の状況について、同 窓会としても情報提供してい きたい。</li> </ul>

カテゴリー	評価点	学内評価	学校関係者評価
VIII 地域社会・国際交流	2.5	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆有志の学生が、新型コロナウイルスワクチン接種介助、小松市水害ボランティアに参加した。また石川県災害ボランティアセンターに登録し、地域社会への貢献の機会となっている。</li> <li>◆国際交流は、外国人留学生が学ぶ近隣の専門学校と交流計画を進めている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆加賀市内の病院で介護福祉士として働く外国人の方がいる。外国人という面で高齢者から受け入れられないのではないかと懸念したが、真面目で優しい対応をするので高齢者からの受けもよい。こういった情報を地域理解や国際交流に活用できないか。</li> </ul>
IX 研究	1.7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究の素地となる学会参加の予算を計上し学会参加を推奨しているが、コロナ禍にあり参加は十分ではない。</li> <li>・研究協力の依頼に関しては積極的に協力している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆学生の対応に追われ、教員の研究の時間がとれない現状である。</li> </ul>

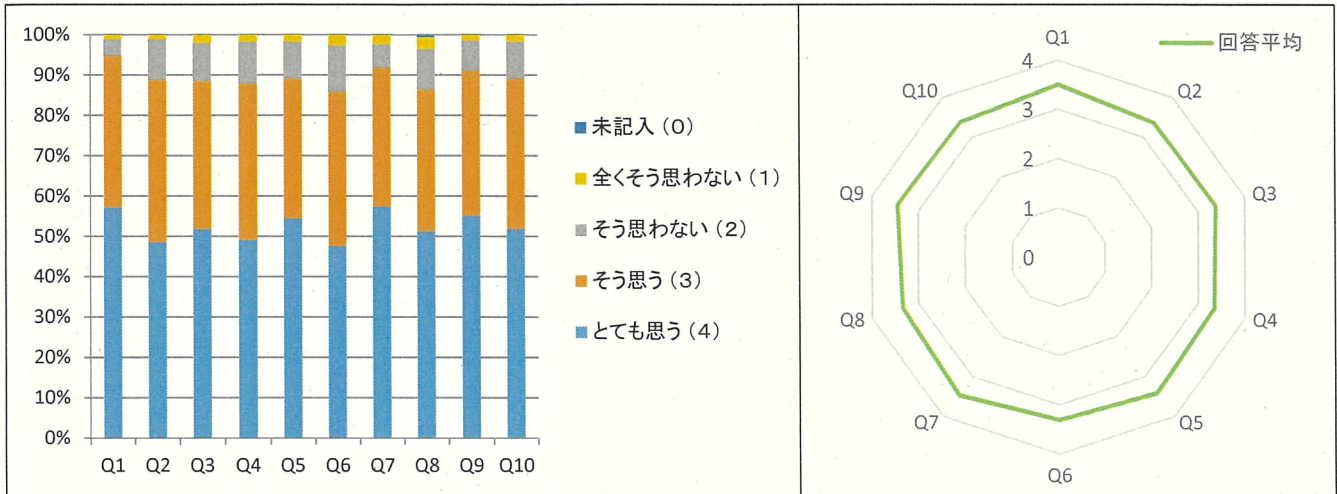
## 2. 授業評価

### 1) 講義

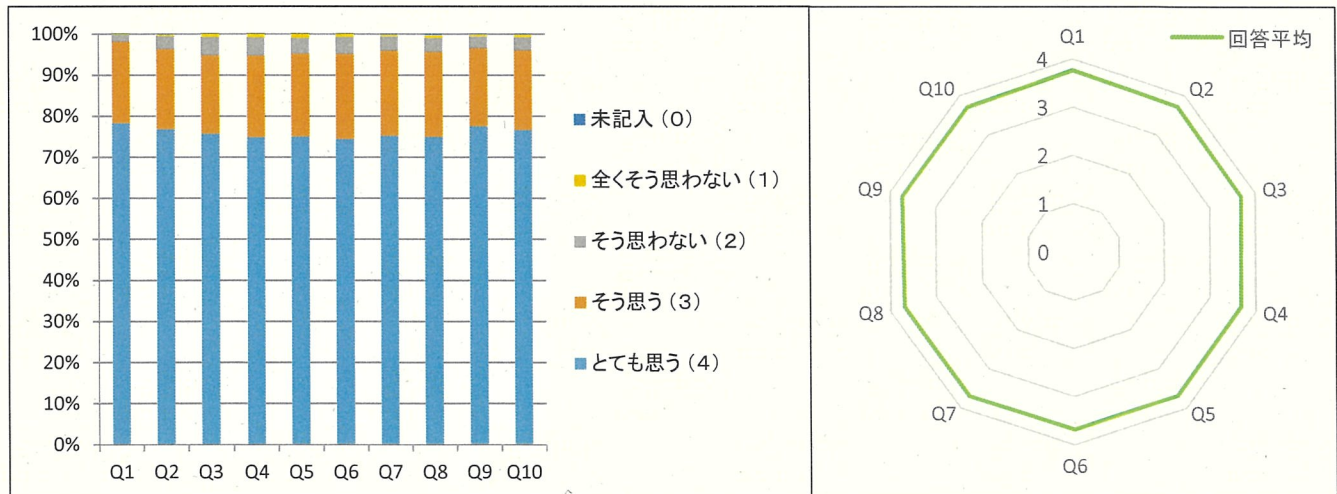
#### 【評価項目】

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| Q1 この講義に意欲的に参加した      | Q6 教員は学生の興味を引き出すような工夫をしていた                        |
| Q2 学習目標や講義計画が明確であった   | Q7 学生が質問しやすく答えも丁寧であった                             |
| Q3 時間や内容の配分が良かった      | Q8 教材教具(テキスト、板書、プリント、パワーポイント、動画、模型など)の使い方は効果的であった |
| Q4 教員の説明は具体的で分かりやすかった | Q9 この講義を受けて知識が深まった                                |
| Q5 教員の話し方は聞き取りやすかった   | Q10 この講義は興味・関心が深まる内容だった                           |

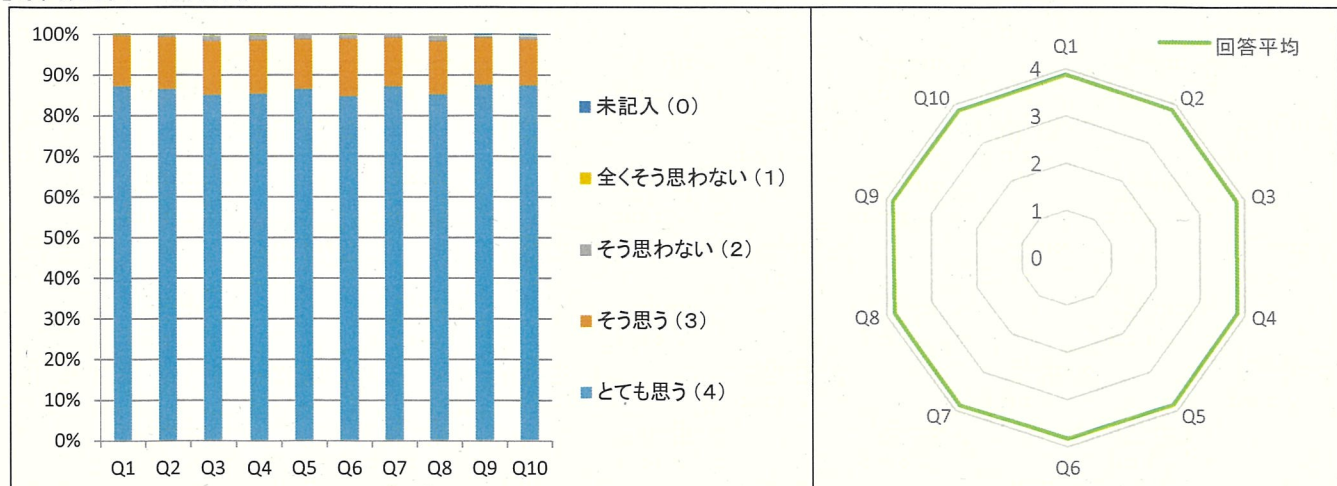
#### 【基礎分野(13科目)】



#### 【専門基礎分野(21科目)】



#### 【専門分野(45科目)】



## 2) 臨地実習(11科目)

### 【評価項目】

- Q1 課題を持ち、目標が達成できるよう努力した
- Q2 グループの一員として協力して取組んだ
- Q3 実習目標を達成するうえで必要な体験ができた
- Q4 事前オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q5 病棟・施設オリエンテーションの内容は、実習を円滑に行うために役立った
- Q6 行動計画について、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q7 カンファレンス/ミーティングでは、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q8 記録指導では、教員から適切な助言・指導が得られた
- Q9 教員は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q10 教員は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q11 教員は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた

- Q12 教員と指導者間で指導の方向性がずれないように連携が取れていた
- Q13 行動計画について、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q14 援助場面では、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q15 カンファレンス/ミーティングでは、指導者から適切な助言・指導が得られた
- Q16 指導者は学生が理解しやすい言葉や方法で指導していた
- Q17 指導者は学生の気持ちや考えを受け止め尊重していた
- Q18 指導者は看護者としてのモデルになっていた
- Q19 指導者は学生の実習が円滑に進むように、適宜調整していた
- Q20 学生のための場所(記録する場所、カンファレンスの場所、私物置き場、休憩室など)は確保されていた
- Q21 実習施設・病棟は学生を受け入れてくれる雰囲気だった
- Q22 全体として充実した実習だった

